

外国人と日本人とが、ともに豊かに生きる地域社会を!

ハロー フレンズ



2013年8月号(隔月刊) 第127号

ふじみの国際交流センター 第15回通常総会が開催されました

●2013年6月23日(日) 午前10時から

- 第1号議案 平成24年度事業報告及び収支決算報告
- 第2号議案 平成25年度事業計画及び収支予算案
- 第3号議案 理事選任

理事長の挨拶で始まり、各事業担当者より活動報告をしました。全ての議題を原案通り可決し、無事終了しました。お忙しいところご出席いただきました会員の皆様、誠にありがとうございました。

今年度も力を合わせて外国人の自立支援と多文化共生社会実現を目指して活動していきます。今後ともふじみの国際交流センターの活動にご理解ご協力を賜ります様お願い申し上げます。



すべて可決され、スタッフはほっと一息

総会後には交流会も開催

スタッフが語る 平成25年度事業計画 こんなことをやりたいと考えています

6月23日に無事に総会が終了しました。創立16年、平成25年度の活動に向けて、事業計画と合わせて、各プロジェクトスタッフの抱負を掲載します。25年度もさまざまな事柄にチャレンジしていきたいと考えておりますので、ぜひご参加ください。

《生活相談担当者》

毎週水曜日の9時～12時まで、富士見市役所で出張生活相談を始めました。

第1第3火曜日の午後2時から、生活相談に関わる勉強会を開いています。関心のある方は是非参加してください。

《日本語教室担当者》

指導者間の意思の疎通を図るために、毎月1回、意見交換会を開いています。今年は学習者を含めてミニレクリエーションをしたいと考えています。また、自宅での学習効果を上げるために、日本工業大学生による日本語教材づくりに積極的にアドバイスをしていきます。

《お当番担当者》

毎日午後1時～4時まで、多言語での相談が受けられるように、外国人スタッフがお当番として加わりました。月曜（ポルトガル語）火・金曜（タガログ語・英語）、水・木・金曜（中国語）です。在住外国人が気軽にFICECに来られるように今年も頑張ります。

《フェイスブック担当者》

FICECの毎日の様子をフェイスブックで紹介しています。是非ご覧下さい。

《国際子どもクラブ担当者》

上福岡駅前の市民活動支援センターに拠点を移してから、子どもの数が急増しました。学生スタッフも定着し、これからは保護者との意思の疎通ができるように、どうしたらよいか考えたいと思います。また、8月に七夕祭りへの参加、9月にはデイキャンプも計画しています。

《多言語情報担当者》

毎月発行している生活情報誌「インフォメーションふじみの」が間もなく200号になります。これからも、正確でわかりやすい生活情報を、迅速に伝えてまいります。

また快適生活情報クリップ「DV編」と「東上線沿線日本語教室ガイド」を発行します。

翻訳スタッフとして協力してくださる方を募集しています。

《監事からのアドバイス①》

* 気軽にFICECを応援してくれる後援会のようなサポーターを増やすのが良い。

* 20周年行事に向けて予算化し、予算化することで意識化していくことが大切。

* 資産の償却方法や、コピー機等のリース契約等、事務処理方法については日常的に質問に答えるので、いつでも聞いてほしい。

《監事からのアドバイス②》

* ロゴが決まったのをきっかけに、会員増強のための入会バッチを作ったり、会員証を出すの良い。見える形でFICECに所属していることを知らせるのが大切。

* FICECの理念を確認し、事務所にはっておくとよい。事務確認事項（内規）も文章ではっきり示さなければならない。

* 総会を交流の場にして、FICECの活動を知ってもらう事が大切。長く寄付して下さる方に、総会の時に感謝状を出したらどうか。

児童自立支援施設 国立武蔵野学院 子どもたちを丸ごと受け入れるのが大切

国立武蔵野学院は、児童福祉法第44条に規定する不良行為をなし、又はなすおそれのある児童及び家庭環境その他環境上の理由により生活指導等を要する児童であって、特に専門的な指導を要するものを入所させ、その自立支援をつかさどり併せて全国の児童自立支援施設の向上に寄与することを目的とした施設です。

訪問当日は、同学院調査課長の青木建さんからお話を伺いました。

6月28日(金)にFICECスタッフ3人で国立武蔵野学院を訪問しました。緑豊かで静かな環境の中にある学院の敷地内には、広いグラウンド、プール、畑や田んぼなどがあります。塀に閉ざされていない開放的な場所で、その広さは東京ドーム2.5倍にも及び、子どもを育てるには最高の環境と感じました。

家族の一員として

施設の運営形態は小舎夫婦制です。文字通り、各寮舎を担当する夫婦である職員並びにその家族が、少人数の子ども達と一緒に生活をします。家庭的に恵まれなかった子ども達に対して、家庭と似た雰囲気を与えることができ、心から安らげる場所を作ることができます。しかし寮長夫妻は子ども達との生活の中でほとんど休みをとれない状態で指導を行うこともあり、この夫婦制を維持することは大変難しく、今日、小舎夫婦制は減少傾向にあります。

子どもの問題は 親の問題からスタートする

子ども達は全国から来ています。人生で初めて乗る「わくわく、ドキドキ」のはずの飛行機が、武蔵野学院に来るためという子ども達もいます。最初から「やり直そう」という気持ちで来る子どももいますが、まだ気持ちの切り替えが出来なくてイライラ、悶々としていて、チャンスがあればいつでも逃げてやろうという子どももいます。

そんな子ども達の家庭環境は、虐待、DV、貧困などの問題の他、ひとり親が多いのも事実です。平均在院期間(約1年半)が長くなっているのは、子どもは立ち直っているのにもかかわらず、子どもを帰すべき環境が整わないからです。子どもを戻せる家族環境や地域環境を整えるにはとても時間がかかります。父親が殴る、母親がとっかえひっかえ家に男を連れ込む、そんな環境の中で育ってきた子ども達が、非行に走ってしまう。悪いことをしたのは確かに子どもですが、それは明らかに大人の問題です。

Withの精神で寄り添い、 背中を押す

日々の生活の中で発生するけんかやコミュニケーションのトラブルのたびに、寮長夫婦や職員、他の子どもたちとの関わりが生まれます。生活を共にし、信頼関係を構築することで、自分を自制する気持ちや、期待に応えようという前向きな気持ちも生まれてきます。

つまずきの原因は学校であることも多く、「勉強って分かっておもしろい」という経験を一つ一つ作っていくことが大切です。また部活動から学ぶ事も非常に多く、「練習は嘘をつかない、がんばっただけ上手くなる」という事は、勉強が苦手な子どもも、スポーツを通じた達成感が自己肯定感に繋がります。

向かい合うと話せない子どもも、例えば、並んで食器洗いや草抜き作業をしている時に話してくれることがあります。不満や問題を言語化することが難しい子どもに対して、大人がしっかり子どもの気持ちを受けとめることで、「この人は信じていい」という気持ちが生れます。この信じあえる関係が「育て直し」の第一歩です。

【訪問を終えて】

非行の事実だけに目を向けるのではなく、「親が子どもに愛着を持って育てていたか?」「居場所があったか?」など、子ども達がどんな環境で育ってきたのかも重視し、丸ごと受け入れることが大切だと思いました。また、対人関係のスキルがない子ども達には、大人がしっかり子どもの気持ちを受けとめ、心の交流を繰り返していくことで、言葉にすることが出来たり、相手の気持ちを感じる心が育っていくのだと感じました。子ども達と真剣に向き合う青木さんの言葉は今でも頭から離れず、これから子ども達の支援をする際に、思い起こしていきたいと思えます。

(文責 上島 直美)

日本人と外国人の問題から 外国人同士の問題に変化

藤林 美穂

去る6月23日、ふじみの国際交流センターの年次総会が開かれました。冒頭の挨拶で、理事長の石井ナナエさんが屏風状に折りたたんだ厚紙を持って登場。何かと思えば、最初のページは、日本人男性と書かれています。次のページをパタンと開くと、ビザのない外国人女性が出てきて、最初の日本人男性と結婚します。結婚によって在留資格を得た彼女は、次のページへ……。次のページにはビザのない外国人男性が。最初の日本人男性と離婚した女性が、今度はかつての自分のようにビザのない外国人男性と結婚します。さらに、ビザを得たその外国人男性は離婚して別の外国人女性と結婚……。

石井さんのお話は、当初センターの活動を始めた段階では、外国人女性が日本人夫からDV被害にあったりして、日本国籍の子を抱えて困っている、助けてあげよう、という考え方でやってきたが、今は日本社会の中で、日本人がまったく関わっていないケースがどんどん増えてきた。センターでも、今現在の在日外国人の状況に合った活動方針をたてていかなければならないと思う、という言葉で締めくくられました。

私もお客さんの相談を受けていて、日本人が「最初」にしか登場しないケースがとても多いと感じています。もちろん、最初の日本人と離婚した後、再び日本人と結婚する外国人もいるのですが、そうではないカップルが増えています。同国人どうし、ということならまだ話はわかりますが、フィリピン人とペルー人・トルコ国籍クルド人など、まったく違う国・文化どうしの結婚もかなりあります。もちろん人の出会いはさまざま、でもな

ぜこういうことが起きるのでしょうか？

あくまでも推測ですが、外国人が日本社会で日々感じている、入管手続きをはじめとするさまざまな不自由について、日本人が本当に理解することが難しいから、かもしれません。異国で（非白人の）移民として生きるということは、ちょっとおおげさに言えば、その国の社会制度を相手に裸一貫で生きる、ということです。社会制度は移民を守ってくれるようにはできていません。生活をともにしている夫婦の間ですら、この感覚はなかなか共有できていないな、と相談に来た外国人とその日本人配偶者を見て思うことがあります。同じ外国人どうしであれば、その感覚がわかる分、心を開いて話し合うことができるのかもしれませんが。

総会の翌日、お客さんのフィリピン人女性（最近離婚して今は独身）が、「友達がイラン人の男性を紹介してくれたの」と言いました。電話とメールで毎日話して、次の日曜は初デート、うきうきわくわくしている彼女が、「でも彼がちゃんとしたビザを持っているのかとか、私がもうすぐビザが切れるという話はまだできていない」。感覚がわかる者どうしても、難しい問題はたくさんあるようです。

●筆者紹介

行政書士(ライフ行政書士事務所)。NGOで働いたり、フィリピン人支援団体でボランティアしたりした後、行政書士開業。毎日いろいろな国から来たいろいろな人の話を聞いて、「在日外国人」の多様性に、びっくりすることの連続です。

大学院で講義を聞いて

高橋 睦代

ふじみの国際交流センターをいつ知ったのか、はっきり覚えていませんが、石井さんの講義を聞いたのは大学院1年の春でした。

講義の内容はもちろんのことですが、外国籍住民を支援することを通して石井さんが感じた事、気づいたことを聞いて、私は心が軽くなり、「この人を信じていい」と思いました。日本で暮らす外国籍の人々のことを本気で考え、行動し、その人たちの権利を代弁してくれるからです。

私は、90年に中国から来日し、その後結婚、出産と育児の日々を送りました。これからも増加する中国系をはじめとする外国籍住民、特に子育て中の外国籍ママと一緒に、多文化の環境で子育

てと生活の悩みなどを、自分の経験を踏まえみんなと共有したいと思っています。

まだまだわからないことが多くありますので、皆さんに教わりながらセンターで色々な方とお会いしたいと思っています。

多文化子育て中のママ大集合
子育てネットワークの仲間になりませんか
 毎月第2・第4月曜日
 10:00~12:00
 責任者 高橋睦代(精神保健福祉士)

見送りの三振より 空振りの三振

パート II

石井 ナナエ

○月○日

朝6時、目が覚めるとテーブルの上に夫のメモ。「釣りに行く」。やったあ。朝ごはんは昨日の残りですまそう。朝のお掃除サボっちゃおう。戸を開けて箒でささっと掃き出すだけの、朝ドラのテーマ曲の間に終わってしまう程度の掃除なのに、何だかすごく得した気分。そうだ、この時間に助成金の申請書を書こう。今ちょうど内閣府に「ニート状態の外国人女性の雇用を支援する仕組み作り」を提案したいと考えていたところだから。

まず100人の外国人女性から就労についてのヒヤリング調査をする。その結果と16年間のFICECの実績を、県や近隣市町の職員や研究者と共有し、就労支援策を協議して、仕組み作りをしたいと思っている。私の申請書から、今まで目を向けられていなかった在住外国人女性の就労支援の重大さを、内閣府の人に伝えられるかしら。

30センチのつるに3つも花をつけている朝顔を愛でたあと、朝からパソコンに向かった。

○月○日

7年前に日本に来て難民申請をしているのに、未だに難民として認められていないという男性

が生活保護の申請をして欲しいとFICECにやってきた。今まで難民に対して興味のなかった私にはどうしていいか分からず、入国管理局に電話をかけた。入管の職員は「その人は生活保護をもらう権利はありません。帰国するように言ってください」と言う。その通りに伝えると彼は、「でも私は特定活動ビザを持っている。9月に期限が切れるが、再申請すればまた1年のビザがもらえる。つぎは3年、5年のビザになり、そのうちエンドレスで日本に居られるようになる」と言い張る。難民認定はそんな仕組みになっているのだろうか。おまけに彼には、難民申請中の女性との間に子供もいるという。

彼の持ってきた特定活動の許可書には「風俗営業以外なら働いて良い」と書いてあるので、「若いのだから必死で働きなさい」と言って2箇所の働き口を紹介しておいた。

「約束通り面接にいったらどうか。あの許可書はほんとに彼のものなのかしら」などと考えながら家に着くと「おめでとうございます。FICECが平成25年度外務大臣賞に選ばれました」という電話。「えっ外務大臣賞」夕飯の支度のために台所に立ってはいるが、体がフワフワ浮いている。

FICECの活動紹介

FICECのfacebook もうご覧になりましたか？

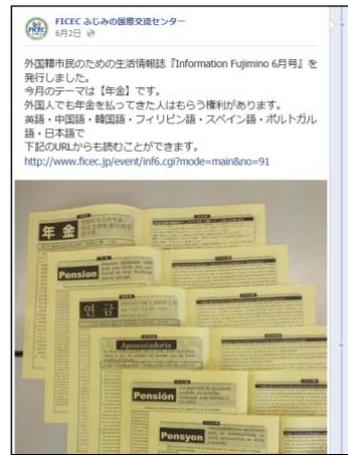
facebookでは、毎日の活動の様子をタイムリーにお伝えしています。
「FICECって何をしているの？」
「外国人支援って何？」
その答えが、このfacebookにあります。



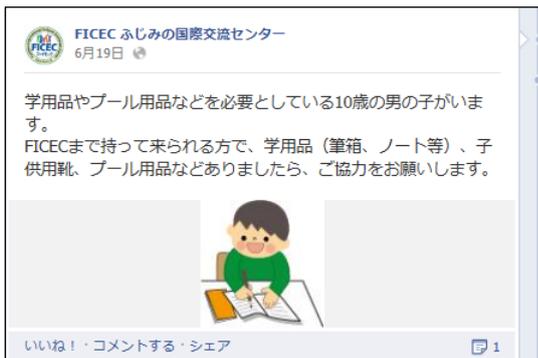
facebookはFICECのホームページからアクセスできます。
①インターネットでふじみの国際交流センターの日本語のページを開きます (<http://www.ficec.jp/index-j.html>)。
②左端の一番上のfacebookをクリック。
または、<https://www.facebook.com/ficecjp>にアクセス。



外国人スタッフによる多言語での情報提供や、情報誌発行のお知らせも行っています。



6月19日に、学用品が必要な男の子へ支援をお願いしたところ、たくさんの方々からコメントやご支援をいただきました。FICECには、様々な事情を抱えた親子が相談に訪れますが、皆様の温かいご支援のおかげで、次の一步を踏み出すことができます。本当にありがとうございました。



310人の方々に見ただけ、「いいね！」が14人、コメントのやりとりは30件にも上りました。



見送りの三振より空振りの三振[II]がついに完成！

ふじみの国際交流センターと、外国人支援にかける熱い思いが詰まった1冊です。ぜひ、ご一読ください。

この本の収入は、ふじみの国際交流センターの活動資金となります。

購入ご希望の方はお送りします。(定価500円+消費税)

※送料80円(2冊まで)と振込手数料はご負担願います。3冊以上ご希望の方はFICECまでご連絡ください。

【振込先:郵便振替口座:00110-0-369511】



「見送りの三振より空振りの三振 II」【はじめに】から・・・

埼玉県共助社会づくり課からの再三のすすめを受けて、新年度を迎えた平成二十五年四月、埼玉県指定NPO法人申請の準備に取り掛かった。

事業内容の報告から始まって、収支内容や、寄付者名簿の提出が義務付けられている。ふじみの国際交流センターを開設した平成九年から現在までの、会費領収書や寄付者台帳をめぐっていく。振込用紙に書き込まれた金額とあったかいメッセージ。

「頑張って」「応援しているよ」「体を大切にしてください」などなど。改めて、大勢の人に支えられて、ふじみの国際交流センターが成り立っていることを実感する。

十五年もの長い間、直接的にはたぶんなんのメリットもないはずなのに、年会費を払ったり、寄付をしてくださる人がこんなにいる。ありがとう。ほんとうにありがとう。お一人お一人の顔を思い浮かべながら、感謝と誇りで胸がいっぱいになった。見送りの三振より 空振りの三振 大好きなこの言葉とともに、ささやかな日記を贈りたい。

「会員アンケート」にご協力いただき、ありがとうございました。

会員のみなさまには隔月ごとにふじみの国際交流センター (FICEC) 機関紙「ハローフレンズ」をお送りしています。それだけでFICECの活動を理解していただけているのだろうか、FICECに期待していることや率直なご意見をお聞きしてそれに応えていきたいと考え、「会員アンケート」を実施しました。

FICECの活動について「理解している」「目的に賛同している」「陰で支えたい」というありがたい言葉とともに、「機関紙だけではわからない」「勉強会や交流イベントに参加したい」という声も多かったことを反省とともに読ませていただきました。

FICECが大切にしてきた事業を継続しながら、

FICECがここで出会うすべての人たちの居場所となり、活動や学習や国際交流の場として大いに使っていただけるよう外に向けてドアを開いておかなければならないと思いました。

4月からfacebookを始め、6月からは第1、第3火曜日2時から自由参加の生活相談勉強会を開催しています。

地域社会の動向や会員のみなさまの意向にアンテナを張って、支持していただけるNPOであるために努力してまいりますので、今後ともご都合に合わせた形でFICECに関わっていただけますようよろしくお願いいたします。

センターの活動をご支援ください 会員・賛助会員・寄付のご案内

●活動を担う会員……正会員

正会員は、スタッフなどとして活動を担っていただく会員です。この会員は、総会などでの議決権をもちます。

年会費：個人1口3,000円、団体1口10,000円

●センターを財政的に支える会員……賛助会員

賛助会員は、センターを財政的に支えていただく会員です。総会等での議決権はありませんが、センターのイベントなどのご案内や、機関誌をお送りいたします。

年会費：個人1口3,000円、団体1口10,000円

会員、賛助会員にはこの機関紙をお送りします

郵便振替口座：00110-0-369511
口座名：ふじみの国際交流センター

外国人生活相談 無料

月曜日～金曜日 10:00～16:00

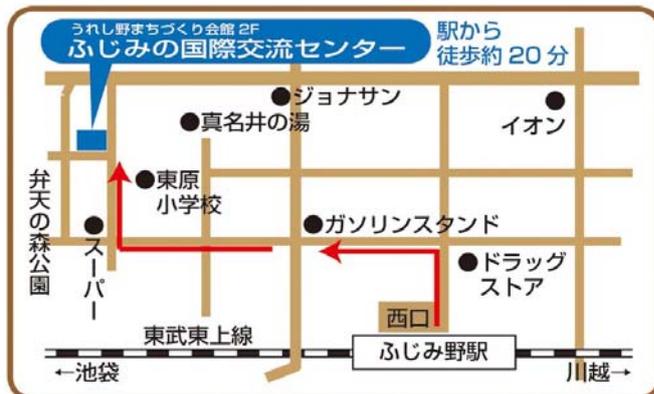
電話：049-269-6450

困っている外国人の方がおられたら
センターをご紹介ください。

ご寄付をいただいた方々 ご支援ありがとうございます

●2012年4月～(50音順・敬称略)

阿澄康子、穴沢エミリン、新井順子、新井良司、荒田光男、イオン(株)大井店、石井ナナエ、岩田仁、上島直美、上原美樹、太田原裕、大西文行、小熊千寿子、小原知子、葛西敦子、加藤久美子、神田順子、国際ソロプチミスト埼玉、木場ひろみ、駒形一夫、佐藤義治、白砂正明、菅山修二、鈴木譲二、関ニーランティ、多ヶ谷實、武田和子、立麻医院、立麻肇子、田中つや子、寺村壁如、戸塚成子、内藤忍、中嶋恵津子、中村禎作、中山明子、沼田伊玖俊、野沢弘子、萩原千代子、長谷川雅恵、長谷川正江、浜本由里子、東入間地区遊技業防犯協力会、FICEC英語教室参加者一同、藤巻則幸、彦由章、松浦康介、森和也、山崎友理、山畑博子、匿名希望3人



サービス料金表

ふじみの国際交流センターでは、センターの設備や、会員・スタッフの技能により、様々なサービスを行っております。ぜひ、ご利用ください。

種別	料金	対象
印刷機	マスター(製版代) 1枚100円 印刷代1枚1円	市民団体 個人
コピー機	1枚10円	
製本機	A4判1冊50円	
折り機	無料	

種別	内容	料金
講師派遣	国際理解教育	3,000円+交通費
	外国料理教室	5,000円(材料費別途)
	語学教室	内容・予算に応じて相談
企画・運営	国際交流・国際理解に関するイベントや研修の企画・運営等	
編集・出版 ホームページ	多言語による情報誌・ガイドブック、ホームページの制作	1枚5,000円
	日本語によるチラシデザイン(A4判)	
翻訳	英語、中国語、韓国語、ポルトガル語、ロシア語、タガログ語、スペイン語、タイ語、ベトナム語 婚姻関係、ビザ申請、履歴書	A4判1頁、40字・30行 1枚1,500円
	その他の文書	A4判1頁、40字・20行 1枚3,000円より
通訳	英語、中国語、韓国語、ポルトガル語、ロシア語、タガログ語、スペイン語、タイ語、ベトナム語	半日5,000円より+交通費

特定非営利活動法人ふじみの国際交流センター

〒356-0053 埼玉県ふじみ野市大井2-15-10

うれし野まちづくり会館2階

Tel:049-256-4290 Fax:049-256-4291

ボランティア活動に、ご参加ください

ふじみの国際交流センターでは、日本語指導をはじめ、外国籍市民との交流・手助けをするボランティアを募っています。ぜひ、電話またはホームページから、お気軽にご連絡ください。